

## 日本労働年鑑 第59集 1989年版

The Labour Year Book of Japan 1989

## 第二部 経営労務と労使関係

## IV 産業動向と合理化の実態

## 概況

☆ 八八年の日本経済は、前年半ばからの景気回復・上昇がつづき、好況を謳歌した。とくに政府の内需拡大政策、各企業の国内市場重視により消費需要が大規模に盛り上がり、海運・造船・石炭など一部の産業をのぞいて、前年前半までとは様変りの活況を呈した。しかし、産業合理化は、好況産業でもひきつづき進められたのが特徴である。

☆ 鉄鋼業は、国内需要の拡大を享受し、生産量が三年ぶりに一億トン台に達し、企業利益は大幅に回復した。他方、前年初頭に発表された大合理化計画は、一部で実施時期が延期されたものの、基本的には計画どおり実施され、コスト削減・利益増大の原因となった。

☆ 自動車、電機・電子産業でも好況を享受した。国内市場では、高級乗用車、トラック、家電製品、半導体の販売が前年にひきつづき好調であったが、他方、円高による発展途上国製品、海外日本企業の対日逆輸出もはじめられた。海外生産にともなう摩擦は、アメリカではやや鎮静しているものの、ヨーロッパでは微妙な状況にある。また、各企業が海外生産網の再編・強化、企業間の提携強化を推進したのも八八年の特徴であった。

☆ 造船・石炭・海運の諸産業では、前年にひきつづき企業再編、人員合理化が大規模に進められ、雇用問題が深刻をきわめた。日本船への外国人船員の乗船はいつそう拡大される傾向にある。

日本労働年鑑 第59集

発行 1989年6月26日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2000年2月22日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑第59集【目次】 次のページ → ■  
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)